

森に親しみ、協働で進める「森林との共生」

方向3 社会全体で取り組む魅力ある森林づくり

(1) 県民と協働で進める森林づくり

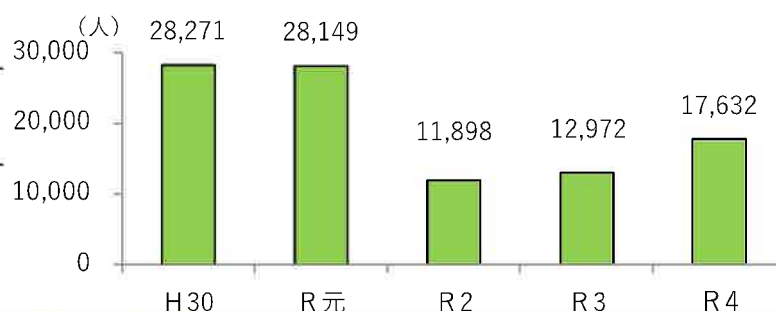
指 標	実 績					目 標
	H30	R 元	R2	R3	R4	R4
森づくり県民大作戦参加者数 (人)	28,271	28,149	11,898	12,972	17,632	16,000
SNS による森林・林業に関する情報発信件数	382	358	220	204	373	365
自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数 (回)	190	216	141	141	169	180
しずおか未来の森サポーター企業数 (累計) (社)	126	130	134	143	148	138
森林環境教育指導者養成人数 (養成講座修了者数) (累計) (人)	-	23	51	75	98	90

森づくり県民大作戦参加者数 (R4)

17,632 人 [目標 16,000 人]

※目標の考え方

新型コロナウイルス感染症の影響が生じる
以前の H26～28 の平均参加者数に回復



令和4年度の評価

「森づくり県民大作戦参加者数」と「自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、回復傾向にあります。次代の森づくりを担う子どもたちが、身近で大切な存在である森林を守り育てる必要性等について、学ぶ機会を創出する必要があります。

(2) 新たな価値を活かした山村づくり

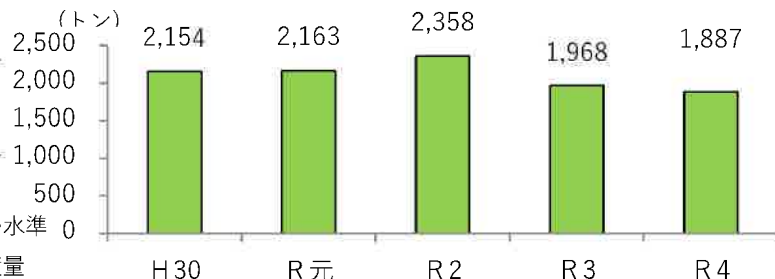
指 標	実 績					目 標
	H30	R 元	R2	R3	R4	R4
効率的な森林整備を実現する路網の延長(累計)(再掲)(km)	4,397	4,680	4,930	5,196	9月 公表予定	5,250
しいたけ生産量 (トン)	2,154	2,163	2,358	1,968	1,887	2,270

しいたけ生産量 (R4)

1,887 トン [目標 2,270 トン]

※目標の考え方

乾しいたけは東日本大震災以降の風評被害前の水準
への回復、生しいたけは現状維持を目指す生産量



令和4年度の評価

「しいたけ生産量」は、生産コストの上昇や高齢化等により、経営規模の縮小や生産の取り止めが進み、減少傾向にあります。このため、生産基盤の強化や販路拡大に向けて取り組む必要があります。

里山等の身近な自然に新たな利用者呼び込み、経済活動を促進するため、地域資源としての森林空間を、多様な主体が、健康、観光、教育等の視点で活用する取組を促進する必要があります。

令和5年度の主な施策

施策	主な取組
県民と協働で進める森林づくり	<p>① 県民の理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林や林業に関する情報を、SNS等の媒体を通じて発信します。 ・自然ふれあい施設の効率的な管理運営を行う指定管理者と連携し、<u>コロナ禍で中止していた自然体験プログラムの再開や参加者数の制限の緩和を進めること</u>で、<u>県民が森林と直接ふれあう場を創出</u>します。 <p>② 県民との合意形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内4地区で森林県民円卓会議を開催し、森林との共生に関する合意の形成や連携した取組を促進します。 <p>③ 県民や企業の参加による森づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森づくり団体の持続的な活動と県民や企業の積極的な参加を促進するため、<u>県・市町・地域住民等の多様な実施主体と連携した「森づくり県民大作戦」のイベント実施を推進</u>します。 ・多様化する企業の社会貢献活動へのニーズに対応するため、活動フィールドの調整や森づくり団体等とのマッチングを行います。 <p>④ 森づくりの担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識をわかりやすく伝え、安全な活動を行う指導者を育成します。 ・森づくり団体の課題解決や安全技術の習得のため、研修会の開催や指導者による現地指導を行い、組織強化を図ります。 ・緑化推進活動を担う団体や林業従事者と連携し、<u>小学生を対象とした森林ESD（森林を活用した持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）プログラムを普及</u>します。
新たな価値を活かした山村づくり	<p>① 新たな山村価値を活かした交流拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>新たな森林空間の活用に興味がある森林所有者と、多様な取組を実施するNPO等のマッチングを行い、森林サービス産業の創出を進め</u>ます。 <p>② 特用林産物等の地域資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しいたけの生産回復のための資材購入や、新規就業者の定着を支援します。 ・生産者団体が行う販路拡大イベント等を支援します。



ノルディックウォーク体験会
(県立森林公園)



「乾しいたけの日」PRイベント
(イオン浜松西店)

2050年カーボンニュートラルの実現への貢献

方向4 「森林との共生」によるカーボンニュートラルの実現

(1) 森林吸収源の確保

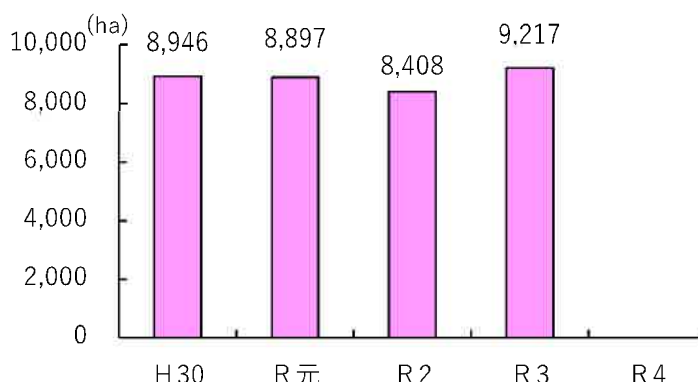
指 標	実 績					目 標
	H30	R 元	R2	R3	R4	R4
森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積(再掲)(ha)	10,080	10,144	10,314	11,116	8月公表予定	11,490
森林の二酸化炭素吸収量を確保する間伐面積(再掲)(ha)	8,946	8,897	8,408	9,217	8月公表予定	9,990
再造林面積 (再掲) (ha)	157	158	172	166	8月公表予定	500

森林の二酸化炭素吸収量を確保する
間伐面積 (R3)

9,217 ha [R4 目標 9,990ha]

※目標の考え方

森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法に基づき森林吸収源対策として計画した間伐面積



令和4年度の評価

「森林の二酸化炭素吸収量を確保する間伐面積」は、造林事業などにより着実に増加していますが、カーボンニュートラルの実現に向けて、吸収源としての森林の役割が重要になっていることから、森林の整備と再造林による若返り、そのための基盤整備に取り組む必要があります。

(2) 炭素貯蔵と排出削減に寄与する森林資源の循環利用の促進

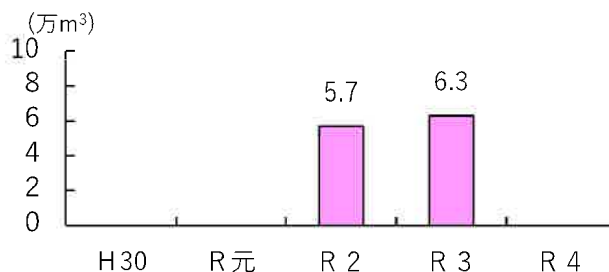
指 標	実 績					目 標
	H30	R 元	R2	R3	R4	R4
公共部門の県産材利用量 (再掲) (m³)	21,765	21,602	21,170	21,702	23,944	23,000
住宅や建築物で利用される品質の確かな県産材製品 (JAS 製品等) の供給量 (再掲) (万 m³)	10.4	10.6	9.7	9.9	5月公表	10.2
木質バイオマス (チップ) 用材生産量 (万 m³)	-	-	5.7	6.3	8月公表予定	10

木質バイオマス (チップ) 用材生産量 (R3)

6.3 万 m³ [R4 目標 10 万 m³]

※目標の考え方

木材生産量 50 万 m³のうち、製材用材と合板用材の割合を除いた生産量



令和4年度の評価

「木質バイオマス (チップ) 用材生産量」は、木材チップ需要の高まりにより徐々に増加していますが、買取価格が低くだけでなく運搬のコスト高により、用材が林内に残置されることが多いため、運搬効率の向上を図る仕組みを普及するなど、木質バイオマスの供給体制の構築が必要です。

令和5年度の主な施策

施策	主な取組
森林吸収源の確保	<p>① 吸収源となる健全な森林づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素吸収量を確保する間伐等の促進や、県営林・静岡悠久の森を計画的に整備します。 ・カーボンニュートラルの実現に向け、森林分野におけるJ-クレジット制度の活用を促進するとともに、県営林において3次元点群データの活用によるJ-クレジットの取得に取り組みます。【新規】 <p>② 森林の若返りを図る主伐・再造林の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト主伐・再造林一貫作業システムの普及を行うとともに、エリートツリー種子の生産を向上します。
炭素貯蔵と排出削減に寄与する森林資源の循環利用の促進	<p>① 貯蔵庫となる県産材利用の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共部門において県が県産材を率先して利用するとともに、市町の木材利用を支援するため、研修会や相談対応を実施します。 ・県産材を使うことの意義や木の良さに対する理解を醸成するため、県と民間企業等による建築物木材利用促進協定の締結を推進します。 ・炭素貯蔵に貢献した建築物を認定する制度を創設し、運用します。【新規】 <p>② 排出削減に寄与するバイオマス利用への供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用木材を木質バイオマスとして活用する取組を支援するとともに、県内全域への水平展開を図り、木材チップの増産を促進します。 ・成長が早く、二酸化炭素の吸収に優れた早生樹を活用した新たな森林経営モデルの開発に取り組みます。



J-クレジット制度の概要

出典：J-クレジット制度ホームページ (<https://japancredit.go.jp/>)

The infographic is titled 'ふじのくに炭素貯蔵建築物認定制度' (Fuji no Kuni Carbon Storage Building Certification System). It features an illustration of a building with CO2 emissions and a tree absorbing CO2. Below the illustration, it says '制度活用のポイント' (Key points for system use) and '環境貢献度を「見える化」でき、自社のイメージアップに！『都市等における第2の森林づくり』に貢献！' (You can visualize environmental contribution, leading to company image improvement! Contributing to 'the second forest creation' in urban areas!). At the bottom, there is an image of a certification document for 'ふじのくに炭素貯蔵建築物認定証' (Fuji no Kuni Carbon Storage Building Certification). A callout box states: '県産材使用量に相当する炭素貯蔵量が記入された木層の認定証を交付' (Issuance of certification for wood layers with carbon storage capacity equivalent to local wood usage).

炭素貯蔵に貢献した建築物を認定する制度